

# てづく かみしぼい 手作り 紙芝居

## 「4・2」——と だ じょうせい だいに だいかいちょう せいきよ 戸田 城 聖 第二代会長 のご 逝去

### 導入部

「4月2日」は、<sup>こうせんる ふ</sup> 広宣 流布 の一切の <sup>いっさい</sup> 願業 を <sup>がんぎょう</sup> 成就 し、58年の <sup>とうと</sup> 尊い 生涯 を閉じた <sup>と だ じょうせい だいに だいかいちょう</sup> 戸田 城 聖 第二代会長 の <sup>しょうつきめいにち</sup> 祥月 命日 です。戸田 先生 は、「この <sup>ちきゅうじょう</sup> 地球上 から “悲惨” の <sup>ひきん</sup> 二字 をなくしたい」と <sup>ねんがん</sup> 念願 されました。「4・2」はこの <sup>じょうわつ</sup> 広宣 流布 への <sup>う</sup> 情熱 を受け <sup>つぎ</sup> 継ぎ、<sup>ちか</sup> 誓い を <sup>いちだん</sup> 一段 と <sup>ふか</sup> 深める 日 です。皆でその <sup>みな</sup> 意義 を <sup>いぎ</sup> 学んで <sup>まな</sup> いきましょう。

### 1 枚目 / <sup>じょうきょう</sup> 上京、<sup>しょうがい</sup> 生涯 の <sup>し</sup> 師 との <sup>であ</sup> 出会い （8枚目の絵の裏に貼る）

<sup>めいじ</sup> 明治 33 (1900) 年 2月 11日、<sup>いしかわけん</sup> 石川県 で <sup>う</sup> 生まれた <sup>と だ せんせい</sup> 戸田 先生 は、<sup>さい</sup> 2歳 の <sup>とき</sup> 時に <sup>いっか</sup> 一家 で <sup>ほっかいどう</sup> 北海道 の <sup>あつたむら</sup> 厚田村 （<sup>げんざい</sup> 現在の <sup>いしかりしあつた</sup> 石狩市 厚田区）に <sup>うつ</sup> 移り <sup>す</sup> 住みます。 <sup>こうとうしょうがっこう</sup> 高等 小学校 を <sup>そつぎょうご</sup> 卒業 後、<sup>ほうこう</sup> 奉公 に <sup>で</sup> 出ながら <sup>べんがく</sup> 勉学 に <sup>はげ</sup> 励み、<sup>さい</sup> 19歳 で <sup>しょうがっこう</sup> 小学校 の <sup>せいきょういん</sup> 正教員 となります。

その後、<sup>ご</sup> 大きな <sup>おお</sup> 志 <sup>こころざし</sup> を抱いていた <sup>い</sup> 戸田 先生 は、<sup>たいしやう</sup> 大正 9 (1920) 年、<sup>もくぜん</sup> 20歳 を <sup>ひか</sup> 目前 に <sup>じょうきょう</sup> 控えた 1月 に <sup>ちじん</sup> 上京 。<sup>しょうかい</sup> 知人の 紹介 で、のちの <sup>そうかがつかいしやうだいかいちょう</sup> 創価 学会 初代 会長 ・<sup>まきぐちつねさぶろうせんせい</sup> 牧口 常三郎 先生 の <sup>たず</sup> もとを訪ねました。 <sup>み</sup> 見 <sup>し</sup> ず <sup>し</sup> 知ら <sup>せいねん</sup> ずの 青年 の <sup>はなし</sup> 話 に <sup>しんけん</sup> 真剣 に <sup>みみ</sup> 耳 を <sup>かたわ</sup> 傾ける 牧口 先生 を、戸田 先生 は “<sup>しょうがい</sup> 生涯 の <sup>し</sup> 師 ” と <sup>さだ</sup> 定め、<sup>こうちやう</sup> 牧口 先生 が <sup>つと</sup> 校長 を <sup>せ</sup> 務めていた <sup>しょうがっこう</sup> 小学校 の <sup>きやういん</sup> 教員 となります。

### 2 枚目 / <sup>そうかきやういぐがくかい</sup> 創価 教育 学会 を <sup>そうりつ</sup> 創立 （1枚目の絵の裏に貼る）

<sup>しょうわ</sup> 昭和 3 (1928) 年、<sup>まきぐちせんせい</sup> 牧口 先生 と <sup>と だ せんせい</sup> 戸田 先生 は <sup>にちれんだいしやうにん</sup> 日蓮 大聖人 の <sup>ぶっぼう</sup> 仏法 に <sup>であ</sup> 出会い、<sup>にゅうしん</sup> 入信 します。その後 <sup>ご</sup> 牧口 先生 は、それまで <sup>か</sup> 書きためてきた <sup>きやういぐがくせつ</sup> 教育 学説 の <sup>しゅっぺん</sup> 出版 を <sup>けつ</sup> 決意 し <sup>じつげん</sup> 戸田 先生 も <sup>ちから</sup> 出版 の <sup>つく</sup> 実現 のために、力を 尽 しました。こうして昭和 5 (1930) 年 11月 18日 『<sup>そうかきやういぐがくたいけい</sup> 創価 教育 学 体系 』が <sup>かんこう</sup> 刊行 されます。この日が、<sup>そうかきやういぐ</sup> 創価 教育 学会、のちの <sup>そうりつきねん</sup> 創価 学会 の <sup>び</sup> 創立 記念 日 となったのです。

### 3枚目／軍国主義との不屈の闘争（2枚目の絵の裏に貼る）

昭和10年代、日本は戦争の泥沼へと突き進んでいました。軍部政府は、無謀な戦争を遂行するために思想・宗教への統制を強化しました。牧口先生は、弾圧を恐れて国家神道を受け入れた日蓮正宗宗門を厳しく諫め、軍部政府に真っ向から抵抗します。そのため牧口先生と戸田先生は、昭和18（1943）年7月、治安維持法違反・不敬罪の容疑で逮捕・投獄されました。

獄中にあった戸田先生は、唱題に励み、法華経を繰り返し読み返して、地涌の菩薩の使命を自覚し、生涯を広宣流布に捧げる決意を定めました。そのころ、厳しい取り調べにも屈せず、信念を貫く獄中闘争を続けた牧口先生は、昭和19（1944）年11月18日、極度の栄養失調と老衰のため、獄中で尊き殉教を遂げたのです。

### 4枚目／学会再建に一人立つ（3枚目の絵の裏に貼る）

日本の敗戦が迫っていた昭和20（1945）年7月3日、2年に及ぶ獄中闘争を貫いて戸田先生は出獄しました。空襲で焼け野原と化した東京の惨状を目の当たりにした戸田先生は恩師・牧口先生を獄死させ、罪のない民衆を塗炭の苦しみに導いた権力とその背後に潜む誤った思想に、激しい憤りを感じました。

そして、「創価教育学会」を「創価学会」と改称し、戦時中の弾圧により壊滅的な打撃を受けた学会再建の戦いを、ひとり、開始します。

### 5枚目／第二代会長に就任（4枚目の絵の裏に貼る）

昭和22（1947）年8月、東京・蒲田で開かれた座談会で戸田先生は、印象深い青年と出会います。やがて入会し、戸田先生が経営する会社で働くようになったその青年こそが、若き日の池田先生でした。

不況により戸田先生の事業が窮地に立たされる中、若き日の池田先生はひとり戸田先生を支え抜きます。また、戸田先生は、その苦境のなか愛弟子を薫陶していきました。

昭和26（1951）年5月3日、事業の苦闘を乗り越えた戸田先生は第二代会長に就任。就任式の席上、「生涯の願業」として75万世帯の弘教を宣言します。

6枚目／学会の基礎をつくる不滅の偉業（5枚目の絵の裏に貼る）

75万世帯の願業を達成するために、師の心をわが心として立ち上がったのは池田先生でした。昭和27(1952)年2月には蒲田支部で壁を破る弘教の戦いをし、文京、札幌、大阪、山口と、各地で金字塔を打ち立てていきます。池田先生の戦いが波動を起こし、昭和32年12月、戸田先生の生涯の願業であった75万世帯が達成されたのです。

このほか『日蓮大聖人御書全集』の発刊や、「原水爆禁止宣言」の発表など、戸田先生はそのご生涯で、今日に至る学会の基礎を築いたのです。

7枚目／4月2日のご逝去（6枚目の絵の裏に貼る）

75万世帯の弘教が達成された翌年の昭和33(1958)年3月。3.16の式典をはじめ、人生の最後の総仕上げともいうべき諸行事を終え、病の床についていた戸田先生は、池田先生に「君の本当の舞台は世界だよ」「世界に征くんだ」と世界広布を託します。また「宗門に巣くう邪悪とは、断固、戦え」「追撃の手をゆるめるな」と仏法破壊の勢力との闘争を教えられたのです。

最後まで後継の青年の育成に全力を尽くした戸田先生は、同年4月2日に58年の生涯を終えました。生前、「桜の花の咲くところに、私は世を去るだろうな」と語っていたとおり、東京には五分咲きの桜が薫っていました。

8枚目／師弟不二の精神を学ぶ「4・2」 (7枚目の絵の裏に貼る)

戸田先生亡き後、広布後継のバトンを託された池田先生は「不二の弟子」として師匠の構想のすべてを実現していきます。池田先生は、第三代会長に就任した昭和35年に“世界への平和旅”を開始。世界広布を大きく進展させ創価の平和・文化・教育運動は世界に広がりました。

池田先生は語っています。「一日また一日、私は、妙法流布のために先生から頂戴した命と思い、師の生命と一体融合して、『臨終只今』の決心で生き切ってきた。戦い切ってきた。師弟不二の偉大な法則を、護り抜き、語り抜いてきた」（「随筆 人間世紀の光」）と。

4月2日は、「この地球上から“悲惨”の二字をなくしたい」と願われた戸田先生と、その思いを現実のものとした池田先生の闘争を思い、「平和と幸福」の勝利を、一段と深く誓い合う日なのです。

決意など